

「許されざる罪」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

序論

20年ほど前、クリント・イーストウッド監督・主演で「許されざる者」という強烈なタイトルの映画が上映され、アカデミー賞の三部門で受賞しました。日本でも渡辺謙さん主演でそのリメイク版が製作されましたが、今朝のメッセージも強烈なタイトルです。

『許されざる罪』…

のっけから何ですが、

このタイトルを見て、聞いて心穏やかでない方がおられるのではないのでしょうか。しかし、このタイトルはイエス様がおっしゃったことばからつけました。(マルコの福音書3:29) したがってマルコの福音書3章から説教者がメッセージするなら、誰もが“許されざる罪”について話さざるを得ません。と言え、とは言えですよ…

クリスチャンの中で少なくない方々が3:29の御言葉で自分自身の行い、あり様、生き方を顧みて不安を感じている事実があるので、今朝はマルコ3:29の聖句を聖書の言わんとする意図に沿って解釈して“聖霊を冒瀆する罪、すなわち許されざる罪”について、それはどのような罪か、一緒に考えてみたいと思います。そしてイエス様の御心にそっとイエス様のことばをしっかりと受け止めさせてもらいたいです。

朗読 マルコ3:20~29

「イエスが家に帰られると、群衆がまた集まって来て、一同は食事をする暇もないほどであった。身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。「あの男は気が変になっている」と言われていたからである。エルサレムから下って来た律法学者たちも、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」と言い、また、「悪霊の頭力で悪霊を追い出している」と言っていた。そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、たとえを用いて語られた。「どうして、サタンがサタンを追い出せよう。国が内輪で争えば、その国は成り立たない。家が内輪で争えば、その家は成り立たない。同じように、サタンが内輪もめして争えば、立ち行かず、滅びてしまう。また、まず強い人を縛り上げなければ、だれも、その人の家に押し入って、家財道具を奪い取ることはできない。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。はっきり言っておく。人の子らが犯す罪やどんな冒瀆の言葉も、すべて赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」イエスがこう言われたのは、「彼は汚れた霊に取りつかれている」と人々が言っていたからである。」

マルコによる福音書 3:20-30 新共同訳

イエス様の働きを悪く言うエルサレムからきた律法学者たちを身元に呼んだイエス様は“聖霊を冒瀆する罪は許されない”とおっしゃいました。それは、律法学者たちのせいで人々が「彼は汚れた霊に取りつかれている」と言っていたからです。

律法学者たちは、実際イエス様について何を言っていたのでしょうか。

(1) イエスはベルゼブルに取り憑かれている

「ベルゼブル」は、もとは「バアル・ゼブール」と言われ、ペリシテ人の町エクロンの偶像神の名称でした。その意味は、「宮殿の主」、あるいは、「住居の主」、「家長」

(2) イエスは悪霊の頭の方で悪霊を追い出している。

イエス様は、今、あげた律法学者たちの言い分すなわち悪霊同士が中違いし、争うことの矛盾、論理の破綻を指摘し、彼らに“聖霊を冒瀆する罪”は、他のいかなる罪と違って決して許されないと警告なさったのですが。

「冒瀆する」のギリシャ語は、英語の blaspheme の語源ブラスフェーメオー βλασφημέω と βλασφημία (名詞) 侮辱的な言葉を浴びせるという意味です。

律法学者たちは早い話、イエス様を口汚く罵ったのです。

これをイエス様は、彼らが聖霊を冒瀆していると彼らに警告したのです。

警告です。つまり、そのようなことをしてはならないと。

なぜ、イエス様の働きについて、それは悪霊のは仕業だと言いつらすことが聖霊を冒瀆する罪なのか。

聖霊は、神の真実を解き明かす方、目に見えない神の恵みを明らかにする方です。そして聖霊はイエス様こそ神の真実と恵を体現した方だと証する方です。

したがって聖霊を冒瀆するとは、イエス様を通じて明らかにされた神の真実、神のことばを意図的に“曲げ、覆い隠し、否定する”ということです。それは神の憐み、救いを拒絶することと同然であり、だからイエス様はそれは許されないと結論づけたのですが。

つまり彼らが神の真実を知りながらその真実を曲げて、弱い民衆を唆してイエス様に疑念を抱かせ、彼らを神の救いから遠ざけるような行為は、神様が決して見過ごせない小さきものをつまづかせる悪だから許されないと断じてきたのです。

小さきものをつまづかせる悪

「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまづかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。」

マルコによる福音書 9:42 新共同訳

許されざる罪の何たるかをご理解くださったと思いますが、この中にイエス様が真実な方だと知りながら、イエス様を冒瀆し、弱い人をつまづかせる人などにはいないと思います。いや、居ません。なぜなら、イエス様がおっしゃる許されない罪とは、そもそも人間が犯し得る罪ではないからです。

それは悪魔が犯す罪、悪魔が犯し得る罪だからです。だから、イエス様はそれは許されないと断じたのです。人間は、この悪魔の影響下にあつて悪魔に唆されて様々な罪を犯すのですが、聖霊を冒瀆する罪は悪魔の専売特許です。

悪魔のみが犯す罪について聖書が教えている箇所があります。

「主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であつた。蛇は女に言った。

「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」女は蛇に答えた。

「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。」

創世記 3:1-7 新共同訳

蛇、悪魔は神のことばの真意を知りながら、それを曲げてイブとアダムを誘惑し、彼らをつまづかせました。

この罪こそが、聖霊を冒瀆する罪、許されざる罪です。

イエス様は、この罪の影響下に置かれている人間をご自身の命では贖い、許し、罪の滅びから救ってくださる方です。

イエス様のことばは、本当は許されざる罪の下で苦しみ、悩む人々を救う神の恵み、神の知恵を表しつついるのです。

イエス様の恵みのうちに生きるものは、何があつても、何をやらかしても、大丈夫！

イエス様の十字架の血潮は、イエス様は私たちを全ての罪を洗いよめ、私たちを罪許され

た神の子として受け入れ、私たちのところに平安を与える力があります。

だから、イエス様を信じないものではなく、
信じるものとさせていただきます。

祈り